

人を対象とする医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の人を対象とする医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。
平成 28 年 6 月 福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座 准教授 村上道夫

【研究課題名】主観的幸福度を用いた精神的ストレスなどのリスク評価に関する研究

【研究期間】 平成 28 年 6 月～平成 33 年 5 月

【研究の意義・目的】

2011 年福島第一原子力発電所事故（第一原発事故）は、様々な複合リスクをもたらした。とりわけ、放射線被ばくによるリスクは社会的注目を集め、複数の研究者、研究機関による調査が進められてきた（UNSCEAR, 2014; Ishikawa, Yasumura et al., 2015）。複数の研究から、第一原発事故がもたらした被ばく量から推定される発がんリスクは自然に発生するがんと比べて低いことが分かってきた。一方、放射線被ばく以外の様々なリスクの顕在化が指摘されている。例えば、避難後のうつなどの精神的健康リスク（Suzuki, Yabe et al., 2015）や避難後の糖尿病発症などに伴う身体的健康リスク増加（Tsubokura, Takita et al., 2013）である。

リスク評価は、様々な異種のリスクのトレードオフを評価することで、個人ないし社会の意思決定に資する学術である。原発事故がもたらしたリスクについて、うつなどの精神的健康リスクや糖尿病などの身体的健康リスクを、被ばくによる発がんリスクと同一指標で比較することが重要である。とりわけ、うつなどの精神的健康リスクは、quality of life の低下が懸念される。

ところで、近年、経済学の分野において、効用を定量化するために、主観的幸福度を用いた手法が注目されている（Frey, 2008; Kahneman and Deaton, 2010）。これらの主観的幸福度を従来リスク学で行われてきた損失余命の指標に拡張・適用することで、一生涯に得られる幸福度（例えば、損失幸福余命）を算出することが可能である。これは、上述した quality of life も加味した新たなリスク評価指標であり、異種の複合リスクのトレードオフ評価に適用できるとの着想に至った。

そこで、本研究では、まず、K6 で測定される精神的ストレスやその他の疾病と主観的幸福度の関係を、他の調整要因も加味しながら評価する。次に、得られた関係をもとに、第一原発事故以降に生じた様々な複合リスクを対象に、そのリスク評価を実施する。

【研究の方法】

本研究では、アンケートの結果を用いて解析を行う。アンケートは、福島県立医科大学が産業技術総合研究所、南相馬市立総合病院との連携のもと、実施する。アンケートは、オンライン調査会社に委託する。対象者は、オンライン調査会社に登録しているモニター（日本全国、20 代～60 代までの男女）約 5000 人である。実際の年齢（20 代、30 代、40 代、50 代、60 代）・性別構成・居住地に準拠する。居住地については、少なくとも、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州地方の 8 地方以上の区分で、分布を調整して回収する。オンラインアンケート会社に登録されているモニターが、直近で引っ越しをして国外に居住している可能性も否定できないため、アンケートの居住地に関する質問項目で国外という選択肢も入れた。国外を選択したモニターの回答結果は解析に用いない。事前に、オンライン調査会社に調査の実施可否と見積りを確認の上、人数を決定している。

調査で得られるデータは、年齢・性別・居住地（都道府県レベル）・身長・体重・職業・婚姻状況・子供/孫の有無・学歴・家族内失業者の有無・世帯人数・世帯年収・喫煙習慣といった個人属性、主観的幸福度に関する項目（生活満足度や昨日の気分）、主観的健康観、精神的ストレスに関する質問項目（健康過去30日間での気分；K6と日常生活への支障の頻度）、既往歴（これまでに病気にかかっている）と医師に診断されたもの）、自由回答などである。

このアンケートにより、精神的ストレスやその他の疾病などと主観的幸福度にどのような関係があるかを明らかにする。この結果をもとに、主観的幸福度を従来リスク学で行われてきた損失余命の指標に拡張・適用することで、一生涯に得られる幸福度（例えば、損失幸福余命）を算出する。具体的には、福島県内での測定結果に適用し（例えば、第一原発事故以降にK6が測定された13市区町村のデータなど、公表された年齢階層・性別に整理されたデータを利用する）、被ばくりスクとの比較を行う。

データの解析は福島県立医科大学が産業技術総合研究所、南相馬市立総合病院と連携しながら実施する。なお、個人情報、オンライン調査会社より、個人情報が削除された上で（匿名化）、通し番号がつけられたデータが提供される。福島県立医科大学、産業技術総合研究所、南相馬市立総合病院では個人情報を所有しない。得られた解析結果をもとに、福島県立医科大学、産業技術総合研究所、南相馬市立総合病院にて結果を考察し、議論する。

【研究組織、研究機関名】

研究責任者

福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座 准教授 村上道夫

主任研究者

福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座 准教授 村上道夫

分担研究者

福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座 教授 前田正治

産業技術総合研究所安全科学研究部門 主任研究員 小野恭子

南相馬市立総合病院 非常勤医 坪倉正治

【人体から採取された試料等の利用について】

該当しない。

【他の機関等への試料等の提供について】

該当しない。

【研究者が保有する個人情報について】

アンケートの対象者（回答者）に関する個人情報は、すべてオンライン調査会社が管理している。福島県立医科大学、産業技術総合研究所、南相馬市立総合病院では、個人情報を所有しない。

【本研究に関する問合せ先】

○研究内容に関する問合せの窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座／放射線医学県民
健康管理センター健康調査支援部門リスクコミュニケーション室 担当 村上道夫

電話:024-547-1320 FAX: 024-547-1244

E-mail:michio@fmu.ac.jp

○個人情報に関する窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学 総務課 大学管理係

電話:024-547-1007 FAX :024-547-1995

○その他ご意見の窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学 研究推進課 研究支援担当

電話:024-547-1825 FAX: 024-547-1991

E-mail:rs@fmu.ac.jp